

## ブルネイ・ダルサラームにおけるイスラーム金融部門の形成とその特徴

上原 健太郎\*

Formation and Characteristics of Islamic Financial Sector in Brunei Darussalam

KAMBARA Kentaro

The Islamic financial industry has been expanding rapidly not only in Middle Eastern countries but also in Southeast Asian Countries, especially in Malaysia since the 2000's. It is obvious that the Islamic financial sector has been developed in Indonesia, the Philippines, Thailand, and Brunei Darussalam. However, there is little academic research on Islamic finance in Brunei Darussalam, where the Islamic financial industry has been expanding in terms of the market share. That is why the object of this paper is to survey the process and explore the prospects of the Islamic financial industry in Brunei Darussalam. Firstly, this paper discusses how the conventional sector in Brunei Darussalam has been established. Then it explains about the introduction and expansion of the Islamic banking sector. After that, it focuses on the framework of the Islamic financial system such as its laws, institutions, and economic policies. In addition, it shows the role of the financial sector and its impact on Brunei's economy. Finally, it summarizes the characteristics and the role of the industry in Brunei's economy.

### 1. はじめに

本稿の目的は、ボルネオ島の西北部に位置し、豊富な天然資源を有するブルネイ・ダルサラーム(以下、ブルネイ)におけるイスラーム金融部門の形成とその特徴を論じることである。ブルネイは、1984年に英国より完全独立を果たして以降、「マレー・イスラーム君主制」(Negara Melayu Islam Beraja / Malay Islamic Monarchy)を国家理念としており、政治、経済、文化等の様々な面でイスラームの価値を重視した動向が見受けられる<sup>1)</sup>。一方、石油・天然ガス依存や公共部門の肥大化などの経済構造が問題視され、経済の多様化、民間部門の拡大が求められている。ブルネイ経済が脱資源依存型・民間部門中心の経済へ移行する上で、金融業は鉱業に代わる新たな産業としてその担うべき役割は大きい。

ブルネイでは、英国の保護領であった1940年代から近代的な銀行部門の形成が始まった。イスラーム金融に着目すると、1990年代以降、貯蓄公社を始めとしたイスラーム金融機関、ならびにそれらの経済活動を円滑に行うための独自の金融システムが導入、育成されてきた。しかしながら、1970年代からイスラーム銀行の設立・運営が行われている中東地域や、東南アジアにおけるイスラーム金融のバイオニア的存在であるマレーシアと比較した際、ブルネイにおけるイスラーム金融産業の動向は、これまで本格的には着目されていない。その結果、沿革、特徴、展望についての包括的・体系的な分析が行われてこなかった。そこで本稿では、ブルネイにおけるイスラーム金融部門の特徴、またその経済的役割について分析することを目的とする。具体的には、まず、ブルネイにおける銀行部門一般の形成について概観する。その後、イスラーム金融部門の沿革と、資

\* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

1) 本稿では、対象地域の機関名などの用語について(マレー語/英語)の形式で併記、あるいは(英語)、(マレー語)の形式で記す。

産・預金・貸出に関するデータの分析を通じて、その特徴や展望を考察していく。そして、最後に同国のイスラーム金融部門がもつ特徴と経済的意義について、仮説を提起したい。

## 2. ブルネイにおける銀行部門の形成とその特徴

本節では、ブルネイの銀行部門を構成する各銀行の沿革について、イスラーム銀行が登場する以前、つまり1980年代までの動向を概観していく<sup>2)</sup>。上述したように、銀行部門を中心とする金融産業の発展は、資源型経済を脱し経済の多様化を目指すブルネイにとって、政府の重要項目の一つと考えられている。そこで、以下では、ブルネイの経済構造や経済政策との関係についても言及しつつ、この部門について分析する。

ブルネイにおける銀行部門の形成は、欧米系銀行の支店が参入し始めた1940～1950年代に遡る<sup>3)</sup>。商業銀行の始まりは、英国保護国時代の1947年に香港上海銀行(Hong Kong Shanghai Banking Cooperation, HSBC)が支店を開いたことに遡る。その後、1958年5月には、イギリスのチャータード銀行(Chartered Bank)が支店を開設した。

1960年代には、欧米系銀行の参入に加え、東南アジア系銀行が設立され始める。マレーシア資本においては、1960年10月に支店を設置したマラヤン銀行(Malayan Bank)、また1963年6月に支店を開設したユナイテッド・マラヤン銀行(United Malayan Banking Corp.)が設立された。その後、1965年には初のブルネイ系であるブルネイ・ナショナル銀行(National Bank of Brunei)が設立されている。同行は、実業家である邱德撥(Khoo Teck Puat, 1917–2004)が資本金の約70%を出資、残り約30%をブルネイ王室が出資する形で設立している[Sidhu 2010: 124]<sup>4)</sup>。

規制監督制度の観点からみると、1967年6月には欧米・東南アジア系銀行設立の動向を受けて、ブルネイ通貨評議会(Lembaga Matawang Brunei / Brunei Currency Board)が設立された。この評議会は通貨の発行・回収や、銀行の有する資産量の確認、また国内の金融機関に対してライセンス供与、監督を行うという役割を担っている[Sidhu 2010: 42]。

1970年代には、アメリカ合衆国のアメリカ銀行(Bank of America)とシティ・バンク(Citi Bank)が1972年に、シンガポールの華聯銀行(Oversea Union Bank)がその翌年の1973年に営業を開始した。

続く1980年代は、ブルネイの政治経済にとって、大きな転換期といえる。それは、1984年にブルネイが英国から完全独立を達成し、また銀行部門において新たなブルネイ系銀行が設立される一方で、政府にとって、かかる銀行の育成が大きな課題となったからである。

1984年には、第29代スルタンのハサナル・ボルキア国王によって財務省(Ministry of Finance)が設立された。本省は、銀行法の施行や、金融業における法定報告書を収集する役割を担っている[Skully 1984: 5–10]。また、国家開発計画を作成する経済企画局(Economic Planning Unit)を下部組織に抱えている。

遡って1980年には、後にブルネイ系となるアイランド開発銀行(Island Development Bank Ltd)が設立された<sup>5)</sup>。同行は、ブルネイ王室が約60%を出資、フィリピンのアヤラグループのエンリケ・

2) 主に[河野 1984: 64; 下元 1986: 186; 菅原 1986: 122–125; Skully 1984: 10–12]を参照。

3) 本稿では、銀行部門を①欧米系銀行、②東南アジア系銀行、そして②に内包されブルネイに本店を持つ③ブルネイ系銀行の三つに区別する。

4) シンガポール生まれで、ホテル業・金融業の大物実業家。ブルネイ前国王のスルタン・オマル・サイフッディーン3世と親しい[Sidhu 2010: 123–124]。

5) 同行は、リテール業務ではなく、出資者であるアヤラグループの専業である建築業、不動産業分野での取引を主に行っていた[Skully 1984: 24–25]。

ゾベル(Enrique Zobel)が約40%を出資するとともに同行の頭取となり、当初フィリピン系銀行として設立された[菅原1986:124]。

1985年には、日本の第一勧業銀行が、このアイランド開発銀行に20%の出資を行っている<sup>6)</sup>。その翌年の1986年8月には、エンリケ・ゾベルが同行の役員を辞任し、頭取を財務省のアブドゥル・ラフマン(Abdul Rahman)が務めることで、同行はブルネイ国際銀行(International Bank of Brunei)としてブルネイ法人となった[竹下1987:360; Saunders 2002:182; *Asia Year book* 1987:114]<sup>7)</sup>。

しかし、ブルネイ系銀行が設立される一方で、その確立までの道のりは難航することとなる。ブルネイ・ナショナル銀行は、邱德撥の監督のもと、12の支店数、3,000人の預金者を有していた[Sidhu 2010:124]。しかし、実際に銀行部門におけるシェアを大きく握っていたのは、香港上海銀行とチャータード銀行であったのである<sup>8)</sup>。さらに、ブルネイ・ナショナル銀行は、不祥事を原因に1986年11月に閉鎖されてしまう[竹下1987:362; *Asia Year book* 1989:90]<sup>9)</sup>。同行の閉鎖は、第5次国家開発計画(1986-1990)の中で、非石油経済分野の開発として金融部門の育成を挙げていた政府にとって、衝撃的であり、ブルネイ系銀行の設立・運営に関して課題を残した出来事といえる。また、欧米系のアメリカ銀行も1987年5月に営業停止している[竹下1988:386; Ahmad 1997:57]。

1990年以降は、規制監督制度の充実が顕著である。まず、1993年には、財務省金融機関局(Bahagian Institusi Kewangan / Financial Institution Division, FID)が設立された。この機関の主な役割は、国内の金融機関の監督と、金融部門の安定を保証することであり、具体的には、ライセンスの付与、金融機関の活動に対する法整備などがその役割である[Venardos 2012:164-165]。翌年の1994年8月には、ブルネイ系としては、初の民間銀行であるバイドゥリ銀行(Baiduri Bank Berhad)が開業している[*Borneo Bulletin* 1994]<sup>10)</sup>。

2000年には、ブルネイ国際金融センター(Brunei International Financial Centre, BIFC)が設立された。これは、ブルネイの金融業を、石油・天然ガス部門に代わる国内経済の新たな産業として育成することを目的としている。その具体的な機能としては、国際事業会社の登録や監督、ミューチュアル・ファンドなどへの監督やライセンス付与、金融商品開発の促進である[Khairuddin and Ashak 2010:46-47]。2004年には、ブルネイ通貨評議会から改組される形でブルネイ通貨金融評議会(Brunei Currency and Monetary Order)が設立された<sup>11)</sup>。

6) この出資参加は、同行と関係の深いメリル・リンチ社の斡旋によるもので、具体的出資形態は、アヤラグリーブから、発行済み株式の20%を譲り受けたものである[菅原1986:124]。1985年7月時点の資本所有は、ブルネイ王室が51%、エンリケ・ゾベルが29%、第一勧業銀行が20%、1985年末には、ブルネイ王室が60%、エンリケ・ゾベルが20%、第一勧業銀行が20%となっている[Saunders 2002:182; Cleary and Wong 1994:115]。

7) 取締役会のメンバーについて、7人はブルネイ系マレー・ムスリムより、2人は第一勧業銀行より選出された[Saunders 2002:182]。また、本行では、金融手法として、従来型金融手法を用いるに止まっており、イスラーム金融手法は導入されていない[Salma 2007:281]。

8) これらの銀行がブルネイ・シェル石油との取引を行うなど、国内の実体経済と結びつきを強めていたことが、かかる背景として窺える[Skully 1984:22-23]。

9) 1986年11月20日、ブルネイ政府はブルネイ・ナショナル銀行とその系列のナショナル・ファイナンス公社(National Finance)とを財務省の管理下に置くと発表し、同日、同行頭取・邱万福とその会計士が逮捕された。財務省の調査によると、ブルネイ・ナショナル銀行は、84年初めから85年4月まで、同行が集めた資金の90%の13億2800万ブルネイ・ドルを頭取・邱万福(Khoo Ban Hock)の父・邱德撥の系列会社へ十分な審査を通さず、あるいは無担保で貸し付けていたという[竹下1987:357; *Asia Year book* 1989:90]。

10) 出資金の内訳は、ブルネイのバイドゥリ・ホールディングス社が65%、ロイヤルブルネイ航空が25%、フランスのパリバス銀行が15%を共同出資している[鳥居1995:349]。

11) 旧評議会との違いは、国内の金融業全体の活動を円滑にする法令全般を整備するという点である[Sidhu2010:42]。

2008年にはヴィジョン2035(Wawasan 2035 / Vision 2035)が、経済開発委員会(Economic Development Board Brunei, EDBB)によって公表されている。その目標は、ブルネイ経済が2035年までに①人的資本の育成、②クオリティ・オブ・ライフの向上、③動的かつ持続可能な経済を目指すということである。また、このような経済のあり方を目指す上で、①スルタンとブルネイへの忠誠、②イスラーム的価値における信頼、③伝統的な寛容と調和的な社会という3点を前提としている[Brunei's National Vision 2014]。

2011年には、ブルネイにおける実質上の中央銀行として、ブルネイ通貨金融庁(Autoriti Monetari Brunei Darussalam, AMBD)が設立された。これは、前述のブルネイ通貨金融評議会、財務省金融機関局、ブルネイ国際金融センターが一元化されたものである。その機能として、金融政策の公表や実施、金融機関に対する監視や規制、通貨管理を行う。

以上から分かるように、1990年代までの銀行部門の主力は、欧米・東南アジア系銀行であった。鉱業に代わる金融産業の育成を目指すブルネイ政府にとって、ブルネイ系銀行の設立は、金融部門の拡大を目指す上で重要な経済政策であったが、ブルネイ・ナショナル銀行の不祥事による閉鎖により、必ずしも成功していたとはいえない。

### 3. イスラーム銀行の登場とその拡大

前節で論じたように、ブルネイにおける銀行部門は、欧米・東南アジア系中心という幕開けであった。しかし、マレー・ムスリムの間には、これらの銀行のみではなく、ブルネイ系銀行を設立しようとする動向がなかったわけではない。しかし、国教であり国家理念でもあるイスラームガリバー(いわゆる利子)概念を否定しているため、政府部内ではそのような銀行の設立許可を巡って難航していたという[河野 1984: 65]。

しかし、1990年代以降、ブルネイでは、利子をとらないイスラーム金融機関が設立されていく。その背景には、1970年代から中東湾岸諸国において、イスラーム銀行が商業的な成功を納め、また1980年代以降には、マレーシアがイスラーム金融における法制度・金融手法の開発分野で顕著な成果を見せたことが後押しとなっていることが考えられる<sup>12)</sup>。

同時に、経済政策としては、1993年5月に第6次国家開発計画(1991-1995)が公表された。本経済開発計画は、資源に依存しない多様化された持続可能な経済を目指すという第5次開発計画と同様の方向性を有しており、非石油部門のプロジェクトが志向された[竹下 1994: 353; Sidhu 2010: 222-223]。そのようなプロジェクトの中で、非石油産業の代表である金融業、とりわけ同時期に設立が始まっていくイスラーム銀行の役割も大きいと考えられていたであろう。そこで本節では、1990年代から現在に至るまでのイスラーム金融機関の沿革、制度について分析していく。

まず、ブルネイにおける初のイスラーム金融機関としてブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社(Perbadanan Tabung Amanah Islam Brunei, TAIB / Brunei Islamic Trust Fund)が、1991年9月23日に設立され、同年9月29日に業務を開始した。この貯蓄公社は、ハサナル・ボルキア国王によって企画された。設立当初の目的は、金融業務を通じてブルネイ国内外の工業・経済発展プロジェクトを企画し、それらに参画すること、またブルネイのマレー・ムスリムによるマッカ巡礼(ハッジ)のための資金を積み立てることである[Negara Brunei Darussalam 1999: 6, 17]。また、貯蓄公社の投資

12) 1990年代のブルネイは、様々な分野においてイスラーム化政策が実施された時期である。例えば、教育分野では、1992年にその国是である「マレー・イスラーム君主制」が中等教育において必修科目となり、またブルネイ・ダルサラーム大学にイスラーム学部が設置されている[Sidhu 2010: xxxix; 金子 2010: 106]。イスラーム銀行もこのような政策の一つとして捉えられる。

に対してシャリーア遵守の視点から提言を行う宗教評議会 (Religious Advisory Committee) は、ハサナル・ボルキア国王が貯蓄公社の総裁、副総裁、その他の取締役を任命する際に、その推薦を行うという役割を担っている [Negara Brunei Darussalam 1999: 6, 12]。

貯蓄公社が国内のイスラーム金融機関として現在まで営業を続けている背景には、そのリテール部門における比較優位が一因として挙げられている [Salma 2007: 273; Venardos 2012: 173]。つまり、巡礼基金というマレー・ムスリム向けのニッチな市場における預金業務が、貯蓄公社の活動を支えていると考えられている [Salma 2007: 273]。1994年1月には、マッカ巡礼サービスを行うダルサラーム社 (Darussalam Holdings Sendurian Berhad) も設立された [鳥居 1995: 346]。

1993年1月には、初の商業銀行であるブルネイ・イスラーム銀行 (Bank Islam Brunei Berhad / Islamic Bank of Brunei, IBB) がブルネイ国際銀行を改称する形で開業され、本店が財務省に置かれている。同年、1400万株 (1株2ブルネイ・ドル) がムスリム預金者向けに公開された [竹下 1994: 354; 鳥居 1995: 345]。1994年2月には、同行の株式取引を扱うブルネイ・イスラーム銀行証券会社が設立された [鳥居 1995: 345]。同行の目的は、国内のマレー・ムスリムが、イスラーム金融商品を利用できるようにすること、また彼らの資金を預金に回すことである [Salma 2007: 281]。

2000年には、ブルネイ開発銀行が、ブルネイ・イスラーム開発銀行 (Islamic Development Bank of Brunei, IDBB) に改称し、イスラーム銀行化を果たしている<sup>13)</sup>。同行は、マレー・ムスリムによる事業の促進を目指す経済企画局 (Economic Planning Unit) の政策に寄与することが求められていた。そして、同年7月1日に、イスラーム銀行化を達成した後、翌年の2001年には、その子会社としてタカーフル IDBB (Takaful IDBB Sdn Bhd) を開業させている [Salma 2007: 282–283]<sup>14)</sup>。

2005年には、ブルネイ・イスラーム銀行とブルネイ・イスラーム開発銀行が合併し、国内で最大資産を有するブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行 (Bank Islam Brunei Darussalam, BIBD) が設立され、翌年の2006年に開業した。前身のブルネイ・イスラーム銀行やブルネイ・イスラーム開発銀行と同様に、同行も政府系銀行に位置づけられる。そのため、同行はビジョン2035に貢献することが求められている [Bank Islam Brunei Darussalam 2013]。

同行の特徴は、第一に、その政府系銀行という特色から、公務員向けの賃金支払銀行であるということである [Bank Islam Brunei Darussalam 2014]。第二に、ローカルな産業への資金調達役割を担っているという点である。この背景には、政府が、かかる産業主体に対して、イスラーム金融商品を利用するように奨励していることが関連していると考えられよう [Oxford Business Group 2013]。

次に、イスラーム金融の制度について論じる。2000年代に入ると、イスラーム銀行の再編が進むとともに、イスラーム金融に対する法律などの制度インフラの整備が充実していく。1999年には、イスラーム金融法 (Islamic Banking Act 1999) が政府によって施行されている [Khairuddin and Ashak 2010: 48]。その翌年の2000年には、前述の通り、ブルネイ国際金融センター (Brunei International Financial Centre, BIFC) が設立され、その目的の中で、ブルネイがイスラーム金融のハブとなることが明示されている。

2008年には、イスラーム金融法 (Islamic Banking Order 2008) が公布されている。この第98項におけるイスラーム金融商品の規定によって、イスラーム銀行がシャリーア適合性の担保として、

13) ブルネイ開発銀行 (Bank Pembangunan Brunei / Development Bank of Brunei) は、第5次国家開発計画において工業の発展を目的として言及されており、1994年6月にその設立が決定され、1995年3月に設立された [Sidhu 2010: 85; 鳥居 1995: 346]。

14) 同行は、一般向けタカーフル (General Takaful) と家族向けタカーフル (Family Takaful) を提供していた [Salma 2007: 283]。ここでのタカーフルとは、クルアーンにも言及されている相互扶助の理念にもとづいたイスラーム型保険のことを指す [長岡 2011: 171]。

シャリーア諮問評議会を設置することが命じられている [Negara Brunei Darussalam 2008: 2903]。

また、前述のブルネイ通貨金融庁は、イスラーム金融商品のシャリーア適合性を保証し、ライセンスを付与する審査機関でもある。したがって、イスラーム金融商品の開発において、ブルネイ通貨金融庁の役割は、今後注目すべきであろう。

図1は、以上の記述をまとめた年表である。この年表から確認できるように、ブルネイにおけるイスラーム金融の導入は、1990年代から本格的に始まっており、イスラーム銀行が設立されていった。貯蓄公社やブルネイ・イスラーム開発銀行が国家の開発プロジェクトへの参画を求められているように、イスラーム金融機関はブルネイ政府の経済政策の遂行を担う存在であるということが分かる。2000年代は、そのようなイスラーム金融機関に対して、イスラーム金融法やブルネイ通貨金融庁などの制度インフラが充実してくる時期であり、イスラーム金融商品のシャリーア適合性を担保するという動向が垣間見える。

図1 ブルネイのイスラーム金融部門に関する年表

1991年	ブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社 (Perbadanan Tabung Amanah Islam Brunei, TAIB / Brunei Islamic Trust Fund)
1993年	財務省金融機関局 (Financial Institution Division, FID) ブルネイ・イスラーム銀行 (Bank Islam Brunei Berhad / Brunei Islamic Bank of Brunei, IBB)
1999年	イスラーム金融法 (Islamic Banking Act 1999)
2000年	ブルネイ・イスラーム開発銀行 (Islamic Development Bank of Brunei, IDBB) ブルネイ国際金融センター (Brunei International Financial Supervisory, BIFC)
2002年	保険・タカーフル法 (International Insurance and Takaful Order 2002)
2004年	ブルネイ通貨金融評議会 (Brunei Currency and Monetary Board)
2005年	ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行 (Bank Islam Brunei Darussalam, BIBD)
2008年	イスラーム金融法 (Islamic Banking Order 2008) タカーフル法 (Islamic Takaful Order 2008)
2011年	ブルネイ通貨金融庁 (Autoriti Monetari Brunei Darussalam, AMBD)

出典) [Khairuddin and Ashak 2010] などの各種資料をもとに筆者作成。

#### 4. ブルネイにおけるイスラーム金融の役割と存在意義

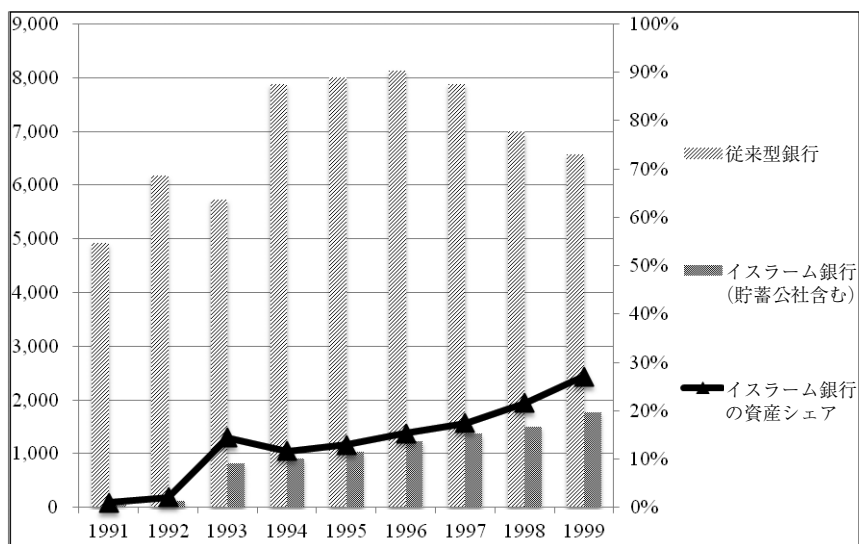
前節で述べた沿革からも分かるように、現在、ブルネイ国内でイスラーム金融サービスを提供している金融機関は、1991年設立のブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社と2005年設立のブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の2機関のみである。

この節では、各イスラーム金融機関の年次レポート、及びブルネイ通貨金融庁にて公表されている統計資料を用いて、金融資産、預金、貸出の各種データから、ブルネイのイスラーム金融の規模やそのシェアを示すことにしたい<sup>15)</sup>。

図2は、従来型銀行とイスラーム銀行の各々の資産額、及びシェアを集計したものである。1991～1999年までのイスラーム銀行の資産は、その絶対額が増加しているのみでなく、そのシェアも約1%から約20%まで増加している。特に、1996年以降は、従来型銀行の資産が減少しているのに反比例して、イスラーム銀行の資産額は増加している。また、直近の2010年から2012年にかけては、貯蓄公社、およびブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の資産額の合計が全体の約40%という値を示していることが分かる。マレーシアにおけるイスラーム金融資産のシェアが

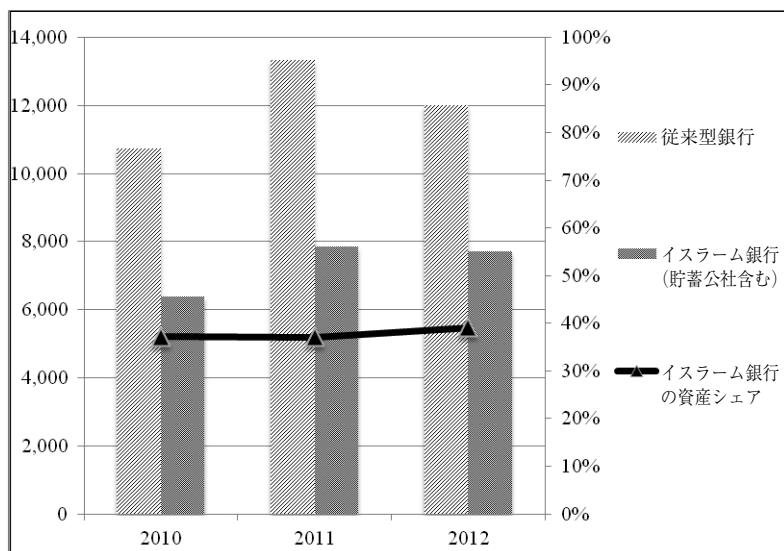
15) 顧客を対象とした研究については、[Bashir 2013]を参照。

20%前後であることを鑑みると、ブルネイの銀行部門におけるイスラーム銀行の影響力は比較的に大きいと考えられるだろう<sup>16)</sup>。



出典) ブルネイ・イスラーム銀行、ブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社の各年次レポートと [Negara Brunei Darussalam 2001; The State Mufti's Fatwa 2000] をもとに筆者作成。

図 2-a. 1990 年代におけるイスラーム・従来型銀行の資産額とそのシェア<sup>17)</sup> (単位: 百万ブルネイ・ドル)



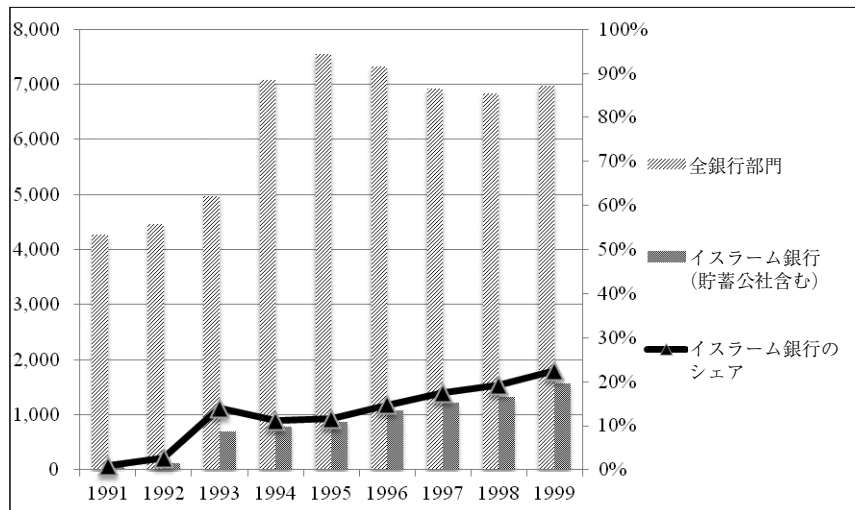
出典) [Banks' Financial Highlights 2014] をもとに筆者作成。

図 2-b. 2010~2012 年におけるイスラーム・従来型銀行の資産額とそのシェア (単位: 百万ブルネイ・ドル)

16) マレーシアにおけるイスラーム銀行の資産額、および全金融機関に対するイスラーム銀行のシェアについては、[Bank Negara Malaysia 2013] を参照。

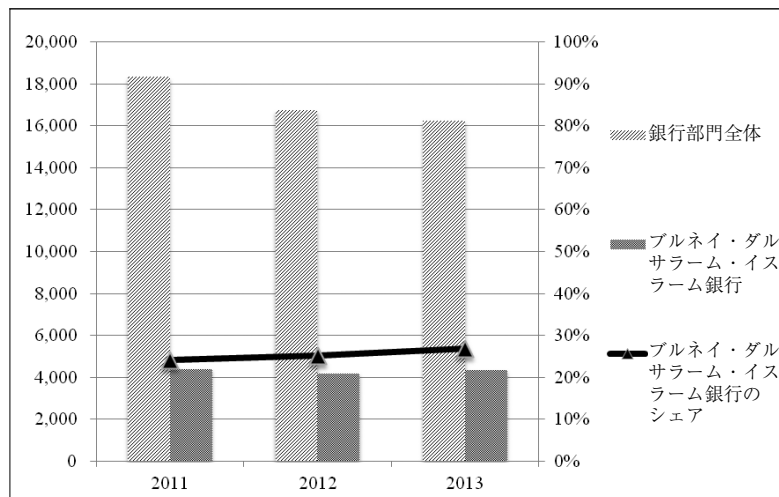
17) ファイナンス・カンパニーとオフショア銀行を除く。

次に、預金について従来型銀行、個々のイスラーム銀行のデータを考察していく。



出典) ブルネイ・イスラーム銀行とブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社の各年の年次レポート、及び[Negara Brunei Darussalam 2001]をもとに筆者作成。

図 3-a. 1990年代におけるブルネイ・イスラーム銀行と銀行部門全体各々の総預金額とそのシェア(単位:百万ブルネイ・ドル)



出典) 各年におけるブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の年次レポートと[Autoriti Monetari Brunei Darussalam 2014]をもとに筆者作成。

図 3-b. 2011~2013年におけるブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行と銀行部門全体各々の総預金額とそのシェア(単位:百万ブルネイ・ドル)



図3は、ブルネイの銀行部門全体、及びブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の預金総額を、ブルネイ通貨金融庁及び同行の年次レポートから集計したものである。これをみると、2011年から2013年にかけて、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の銀行部門全体に対する預金が一定の割合を占めていることが分かる。具体的に、そのシェアは、平均で25.4%という数値を示している。ただし、ここでは貯蓄公社の預金総額に関するデータを捨象しているため、イスラーム金融機関全体の預金総額についてのシェアを示しているわけでない。この点を考慮すると、イスラーム金融機関の預金についてのシェアは、同国において銀行部門のなかで一定の数値を示すものであるといえよう。

表1

	2010			2011			2012		
	BIBD	全銀行部門	割合	BIBD	全銀行部門	割合	BIBD	全銀行部門	割合
農業	7,964	20,000	39.8%	9,544	24,000	39.8%	8,818	23,000	38.3%
金融	281	2,000	14.1%	155,951	266,000	58.6%	128,411	214,000	60.0%
工業	65,823	154,000	42.7%	95,193	353,000	27.0%	172,776	350,000	49.4%
輸送	432,364	580,000	74.5%	46,169	96,000	48.1%	172,931	218,000	79.3%
インフラストラクチャー	43,222	172,000	25.1%	66,629	187,000	35.6%	83,683	181,000	46.2%
貿易	34,440	365,000	9.4%	39,592	373,000	10.6%	50,584	418,000	12.1%
サービス	42,634	163,000	26.2%	46,615	215,000	21.7%	51,531	223,000	23.1%
居住用資産	258,957	916,000	28.3%	303,919	978,000	31.1%	343,070	1,090,000	31.5%
不動産開発	135,266	422,000	32.1%	123,435	442,000	27.9%	133,162	484,000	27.5%
通信・情報技術	4,548	87,000	5.2%	9,502	87,000	10.9%	11,911	77,000	15.5%
個人消費	1,017,537	2,251,000	45.2%	911,083	1,987,000	45.9%	841,897	1,842,000	45.7%
合計	2,043,036	5,132,000	39.8%	1,807,632	5,008,000	36.1%	1,998,774	5,120,000	39.0%

出典) [Bank Islam Brunei Darussalam 2012; Bank Islam Brunei Darussalam 2013; Banks' Financial Highlights 2014] をもとに筆者作成。

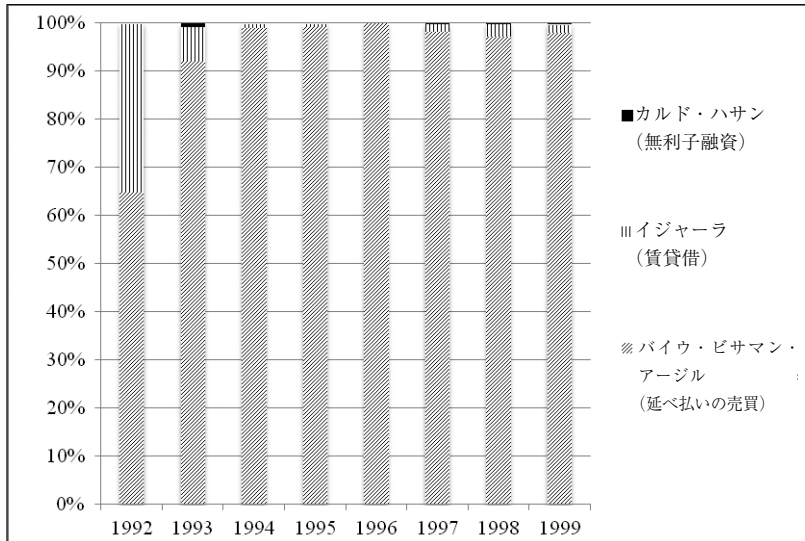
表1は、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行と銀行部門全体の産業別貸出額、また銀行部門全体の貸出に占めるブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の寄与度について集計したものである。まず、貸出総額とそのシェアに目を向けると、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の貸出が、銀行部門全体の約40%を占めていることが分かる。これは、同国の銀行部門の与信業務におけるブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の役割の大きさを示しているといえよう。

次に、産業別のデータに目を向けると、以下の2点が特徴として挙げられよう。第一に、2010年から2011年にかけて、金融分野への貸出が急増しているという点である。この時期のブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の寄与度をみると、2010年には、約14.1%だったのが、2011年には約58.6%、2012年には、約60%を占めている。このことから、金融部門への貸出について、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行が銀行部門全体に大きく寄与していることが確認できる。

第二に、個人消費の項目に着目したい。個人消費に対する貸出をみると、全銀行部門の内、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の占める割合は、約45%である。このことから分かるように、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行が、銀行部門全体のリテール業務に大きく寄与していると分かる。加えて、農業、工業、輸送、インフラストラクチャー分野においても一定の貸出の割合を占めていることが分かる。

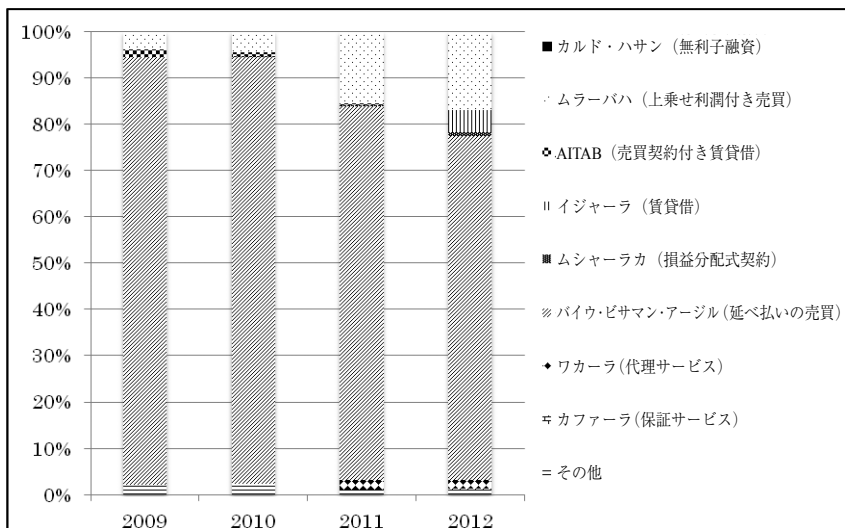
次に、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の与信業務について、どのような金融手法が用いられているのであろうか。図4では、ブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社、およびブルネイ・ダ

ルサラーム・イスラーム銀行の貸出における手法別割合を示している。2つの図から貸出についてはその大部分を、バイウ・ピサマン・アージュル(延べ払いの売買)が占めていることが分かる。



出典) 各年におけるブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社の年次レポートを参照。

図 4-a. 1990年代のブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社の貸出における手法別割合<sup>18)</sup>



出典) [Bank Islam Brunei Darussalam 2010; Bank Islam Brunei Darussalam 2011; Bank Islam Brunei Darussalam 2012; Bank Islam Brunei Darussalam 2013]を参考に執筆者作成。

図 4-b. 2009～2012年のブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の貸出における手法別割合

18) 図 4 における契約手法の訳語については、「カファーラ」と「ワカーラ」については筆者が行った。その他は、[長岡 2011: 213-214]を参照。

## 5. ブルネイのイスラーム金融システムの特徴と経済的意義の解明に向けて

ここまで、主に、ブルネイにおけるイスラーム金融の沿革、実態について論じてきた。結論に当たる本節では、以上のような背景をもつ同国のイスラーム金融の特徴と経済的役割について考察したい。

まず、ブルネイのイスラーム金融の特徴について論じる。第一に、ブルネイのイスラーム銀行が、欧米・東南アジア系や民間銀行中心の従来型銀行とは異なり、政府との結びつきが強いという点である。第3節では、1990年代以降、国内で初めてイスラーム金融サービスを提供するブルネイ・イスラーム信用貯蓄公社が設立され、その後、ブルネイ国際銀行を皮切りに従来型銀行からイスラーム銀行への改称が行われた。その過程において、国家主導でイスラーム金融サービスの提供が開始されたのである。そのような点は、現在、存在するイスラーム金融機関が、政府系銀行であるということだけではなく、同国の銀行部門の形成過程からも確認できよう。つまり、第2節で言及したように欧米・東南アジア系中心の銀行部門に対して、政府が国内の経済発展を目指す上で、ブルネイ系銀行の設立に力を入れていたことが確認された。イスラーム銀行は、そのような政府の経済政策の一つとして捉えることができよう。

第二に、イスラーム金融部門の特徴として、そのリテール業務が挙げられる。例を挙げると、貯蓄公社による巡礼基金の活動や、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行が公務員の給与振込先として指定されている点が挙げられよう。また、イスラーム銀行の沿革に目を向けると、ブルネイ・イスラーム銀行の設立目的、またブルネイ・イスラーム開発銀行の機能など、マレー・ムスリム向けのリテール金融商品を提供するという点で共通している。

第4節では、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の預金額が、銀行部門全体の中で一定のシェアを獲得しているとともに、与信業務において、個人消費への貸出シェアが約45%を占めていることが分かった。この点も、イスラーム金融がリテール業務に重点を置いていることを示しているといえよう。

では、これらの特徴を持つイスラーム金融部門の経済的役割は何であろうか。第一に、資源依存型のブルネイ経済において、イスラーム金融部門が、経済の多様化へ貢献するという点である。第4節では、イスラーム銀行の金融資産が、全体の約40%を占めるなど、金融部門において一定のシェアを獲得していることが分かった。また、同節では、金融部門に対する貸出について、ブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行の役割が大きいことも指摘された。このように、イスラーム金融は、ブルネイ経済の多様化を促進する金融業の発展に寄与していることが分かる。

第二の経済的役割は、イスラーム金融部門が、政府の経済発展戦略の担い手であるということである。ブルネイ経済の課題の一つは、公的部門の肥大化である。そのため、政府はこれまでの国家開発計画のなかで、マレー・ムスリムによる民間部門の振興を促進してきた。かかる文脈において、ブルネイのイスラーム金融は、同国の経済発展戦略に寄与していると考えられる。その事例として、第3節で、イスラーム開発銀行が国家の開発プロジェクトに、またブルネイ・ダルサラーム・イスラーム銀行が国家経済開発計画やヴィジョン2035に貢献するよう位置づけられていたことが挙げられる。

第三に、上記のような経済発展戦略の中で、特にイスラーム金融部門が、マレー・ムスリムの家計や中小企業の経済活動に寄与しているということである。それは、リテール業務中心のイスラーム金融部門が、マレー・ムスリムの家計、中小企業における消費や投資を促進していると考えられるからである。従って、ブルネイのイスラーム金融、特にそのリテール業務への着目が、今後のブルネイの経済発展戦略を読み取る一つの鍵になるだろう。

参考文献

- 金子芳樹 2010「ブルネイの政治体制と其の変化——スルタン専制の安定性と政治改革の実態」拓殖大学海外事業研究所『海外事情』58(12), pp. 98–115.
- 河野正史 1984「ブルネイの完全独立に伴う財政国庫問題」『アジア経済』25(1), pp. 52–66.
- 下元豊 1986『もっと知りたいブルネイ』弘文堂.
- 菅原友太 1986『ブルネイ・ダルサラーム国——その豊かさや資源・産業』n.d.
- 竹下秀邦 1987「1986年のブルネイ 油価低落、通貨調整等で調整か」アジア経済研究所『アジア・中東動向年報 1987年版』pp. 354–358.
- . 1988「1987年のブルネイ——遅れの目立つ制度改革」アジア経済研究所『アジア動向年報 1988年度版』pp. 352–353.
- . 1994「1993年のブルネイ——イスラム化進行は一段落か」アジア経済研究所『アジア動向年報 1994年度版』pp. 382–384.
- 鳥居高 1995「1994年のブルネイ——イスラム化政策と開放政策の同時進行」アジア経済研究所『アジア動向年報 1995年度版』pp. 344–347.
- 長岡慎介 2011『現代イスラーム金融論』名古屋大学出版会.
- Asia Yearbook. 1987. “Brunei,” *Asia 1987 Yearbook: Far Eastern Economic Review*. Hong Kong: Review Pub. Co, pp. 112–115.
- . 1989. “Brunei,” *Asia 1989 Yearbook: Far Eastern Economic Review*. Hong Kong: Review Pub. Co, pp. 89–91.
- Autoriti Monetari Brunei Darussalam. 2014. *Monthly Statistical Bulletin*. Bandar Seri Begawan: Autoriti Monetari Brunei Darussalam.
- Banks’ Financial Highlights. 2014. <<http://www.ambd.gov.bn/Pages/Banks-Financial-Highlights>> (2014年11月5日閲覧).
- Bank Islam Brunei Darussalam (BIBD). 2010. *Annual Report 2009*. Bandar Seri Begawan: BIBD.
- . 2011. *Annual Report 2010*. Bandar Seri Begawan: Negara Brunei Darussalam.
- . 2012. *Annual Report 2011*. Bandar Seri Begawan: Negara Brunei Darussalam.
- . 2013. *Annual Report 2012*. Bandar Seri Begawan: Negara Brunei Darussalam.
- . 2014. “Corporate Profile,” <<http://www.bibd.com.bn/about/corporate-profile/>> (2014年1月21日閲覧).
- Bank Negara Malaysia. 2013. *Monthly Statistical Bulletin*. Kuala Lumpur: Bank Negara Malaysia.
- Bashir, M. S. 2013. “Analysis of Customer Satisfaction with the Islamic Banking Sector: Case of Brunei Darussalam,” *Journal Business and Management Science* 2(10), pp. 38–50.
- Borneo Bulletin. 1994 (July 19). “Baiduri Bank Opens Doors to Public.”
- Brunei’s National Vision. 2014. <[http://www.bedb.com.bn/why\\_wawasan2035.html](http://www.bedb.com.bn/why_wawasan2035.html)> (2014年8月30日閲覧).
- Islamic Bank of Brunei Berhad (IBB). n.d. *Annual Report 1994*. Bandar Seri Begawan: IBB.
- . n.d. *Annual Report 1995*. Bandar Seri Begawan: IBB.
- . n.d. *Annual Report 1996*. Bandar Seri Begawan: IBB.
- . n.d. *Annual Report 1998*. Bandar Seri Begawan: IBB.
- . n.d. *Mesyuarat Agong Tahunan 1999*. Bandar Seri Begawan: IBB.
- . n.d. *Mesyuarat Agong Tahunan 2000*. Bandar Seri Begawan: IBB.
- Khairuddin, K. A. and S. Ashak. 2010. “Brunei: a Niche Money Market for Offshore Islamic Finance,” in

- Venardos, A. M. (ed.), *Current Issues in Islamic Banking and Finance: Resilience and Stability in the Present System*, Singapore: World Scientific Publishing, pp.45–59.
- Monthly Statistical Bulletin August 2014. 2014. <[http://www.bnm.gov.my/index.php?ch=en\\_publication\\_catalogue&pg=en\\_publication\\_msb&mtb=8&yr=2014&lang=en&eId=box1](http://www.bnm.gov.my/index.php?ch=en_publication_catalogue&pg=en_publication_msb&mtb=8&yr=2014&lang=en&eId=box1)> (2014年10月31日閲覧).
- Negara Brunei Darussalam. 1999. *Perbadanan Tabung Amanah Islam Brunei Act (CAP. 163)*. Negara Brunei Darussalam.
- . 2001. *Brunei Darussalam Statistical Yearbook 2000/2001*. Negara Brunei Darussalam.
- . 2008. *Tambahan Kepada Warta Kerajaan: Bahagian II (Supplement to Government Gazette: Part II)*. Negara Brunei Darussalam.
- Oxford Business Group. 2013. *The Report: Brunei Darussalam 2013*.
- Perbadanan Tabung Amanah Islam Brunei (TAIB). n.d. *Laporan Tahunandan Akaun-akaun Perbadanan 1991*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Laporan Tahunan dan Akaun-akaun Perbadanan 1992*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Laporan Tahunan dan Akaun-akaun Perbadanan 1993*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Akaun-akaun pada 31 Disember, 1994 Bersama-sama dengan Laporan para Pengarah dan Juruaudit*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Akaun-akaun pada 31 Disember, 1995 Bersama-sama dengan Laporan para Pengarah dan Juruaudit*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Akaun-akaun pada 31 Disember, 1996 Bersama-sama dengan Laporan para Pengarah dan Juruaudit*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Akaun-akaun pada 31 Disember, 1997 Bersama-sama dengan Laporan para Pengarah dan Juruaudit*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Akaun-akaun pada 31 Disember, 1998 Bersama-sama dengan Laporan para Pengarah dan Juruaudit*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- . n.d. *Akaun-akaun pada 31 Disember, 1999 Bersama-sama dengan Laporan para Pengarah dan Juruaudit*. Bandar Seri Begawan: TAIB.
- Salma, L. 2007. “Islamic Banking in Brunei and the Future Role of Center for Islamic Banking, Finance and Management (CIBFIM),” in Ali, S. S. and A. Ahmad (eds.), *Islamic Banking and Finance: Fundamentals and Contemporary Issues*, Jeddah: Islamic Research and Training Institute and Universiti Brunei Darussalam.
- Saunders, G. 2002. *A History of Brunei*. London: RoutledgeCurzon.
- Sidhu, J. S. 2010. *Historical Dictionary of Brunei Darussalam*. Lanhan: Scarecrow Press.
- Skully, M. T. 1984. *Financial Institutions and Markets in Southeast Asia*. New York: St. Martin Press.
- The State Mufti’s Fatwa. 2000. *Monetary Issues*. Kuala Lumpur: Negara Brunei Darussalam.
- Venardos, A. M. 2012. *Islamic Banking & Finance in South-East Asia*. Hackensack: World Scientific Publishing.